日高新報（2022 年 10 月 13 日付 1 面掲載）

【ワーケーションに最適　白浜空港隣　ビジネス拠点オープン】

ワーケーションに最適

白浜空港隣　ビジネス拠点オープン

コンセプトは快適な空間、環境への配慮等

白浜町の南紀白浜空港隣接の展望広場内に11日、新しいビジネス拠点「オフィスクラウド９（ナイン）」が開業した。白浜町はリゾート地を生かし、休暇を楽しみながら仕事をするワーケーションの施設整備を進めており、町内４カ所のビジネスオフィスとなる。空港から近い利便性や太平洋を一望できるロケーションと立地条件は最高で、都会からの新規進出が期待できそうだ。

テープカットで開業を祝う仁坂知事（左から2人目）ら

　展望広場内の県有地を有効活用しようと、県が昨年２月にビジネス拠点整備・運営事業者を公募。東京の建設コンサルタント会社、株式会社オリエンタルコンサルタンツと和歌山市の建設会社、株式会社淺川組が共同で事業を進めることになり、昨年11月に起工、約４億２０００万円をかけて整備した。両社が運営も行う。

　クラウド９は延べ床面積約１０００平方㍍、木造平屋建て。レンタルオフィス７室のほか、シェアスペース、会議室なども設けている。駐車場からは海、室内からは空港の滑走路が一望と、ダイナミックなロケーションが魅力。屋根には太陽光を設置して環境に配慮し、施設には紀州材をふんだんに使い、室内の壁は三段壁をイメージするなど白浜らしさにもこだわった。すでにレンタルオフィス７室のうち２室は東京と京都のＩＣＴ企業２社が入居しており、ほかにも問い合わせは多く来ているという。白浜町はワーケーションの推進に力を入れ、これまでレンタルオフィス施設を町が２カ所、民間が１カ所を整備。クラウド９が４カ所目。今回の整備に県と町が３０００万円ずつ補助した。

　初日は開業式が行われ、神事のあとテープカットや内覧会で完成を祝った。オリエンタルコンサルタンツの野崎秀則社長はクラウド９の名前や施設に込めた思いを披露し、「南紀白浜らしさ、快適に利用できる空間、環境に配慮という３つのコンセプト通りの施設ができた。地域の活性化に貢献していきたい」と抱負。淺川組の池内茂雄会長は「紀南の玄関口で、ワーケーションには最適の地」と今後の運営に期待を込め、仁坂吉伸知事は「サテライトオフィスやワーケーションの基地としてどんどん利用してもらい、地域発展の起爆剤になることを期待している」と激励。今回のビジネス拠点整備事業を提案した南紀白浜エアポートの岡田信一郎社長は「県の迅速な対応で待望の開業となった。紀南の活性化に今後も連携していきたい」とあいさつした。